

実践 多職種カンファレンス 事例①

事例紹介

Aさん 95歳 女性 要介護3

【診断名】 脳梗塞後遺症 右片麻痺 言語障害
高血圧症 心不全

【既往歴】1980年 高血圧症にて内服治療開始

2011年 脳梗塞発症(右片麻痺、言語障害)

【家族構成】本人、長男夫婦(70歳代)、孫夫婦、曾孫

【生活歴】家事、農作業に従事

【キーパーソン】長男 【主介護者】長男の嫁

事例紹介

【利用サービス】

2011年に退院～2013年まで：訪問リハビリ(1回/週)、
ただし6か月で中止、通所介護(2回/週)

2013年：訪問入浴(2回/週)

【経過】

- 2013年6月に発熱が出現したため、主治医に連絡し初めて往診。点滴及び抗生剤投与などの治療により回復した。
- 何度か発熱を繰り返していくうちに、全身状態が悪化していった。
- 食事がほとんど摂れなくなったため、家族が慌てて救急車を呼び病院へ搬送、入院となった。

事例検討

【論点】

1. この患者さんの病状の軌跡を考えてみましょう。
2013年6月はどのような時期で、今後はどのようなことが予測されるでしょうか。
2. この患者さんの主治医は、2013年6月にどのような在宅医療・介護を提案したら良いでしょうか。